

2. 学 力 向 上

本校生徒の学力については、全般的に低いことが重要な問題であり、これを向上させることが懸案となっている。そのためには低学力の要因を研究するとともに、教材の精選、視聴覚教材、デジタル教材等の活用、学習課程の改善など、授業の効率化を推進し、さらにテスト内容、テスト方法を再検討して、評価の適切化を図る必要がある。

学力向上の対策として上記以外にも本年度は下記の事項を実施する。

各学年とも

- ・自習時間を自主的に活用させることを目指して、課題を用意し、一斉に各自が学習できるようにする。
- ・基礎的な力を身につけさせるため国語・社会・数学・理科・英語の5教科について可能なかぎり基礎学力向上のための具体的な手だてを実施する。
- ・定期テスト前には、放課後の時間を利用し質問を受けることを中心とした学習会の計画を立て実施する。

1 学力調査等の結果分析に基づき、実践している取り組み

平成21・22年度に、和歌山県教育センター「学びの丘」と連携し学力向上推進支援事業により、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、本校の学力向上のためのポイントとなる点を5点あげ、本校の学力向上の方法等を検討し、以下のような取り組みを進めているところである。

① 「早寝、早起き、朝ごはん」といった生活のリズムを身につけさせる

生徒質問紙調査の分析結果より、基本的な生活習慣について、生活習慣の面では全国平均より10ポイント程度低く、基本的な生活習慣が確立されていない生徒が多いことが分かったが、徐々に、改善の方向に向かっている。また、生活面においては、テレビゲームや携帯電話に依存していると思われる生徒の割合も全国平均より大きく上回っているという状況にあることがわかった。学習時間の面では、塾等での学習時間も入っているものと思われるが、全国平均や県平均より学習時間が長い生徒の割合が高いことが分かり、明るい展望もある。

保護者に対して、基本的な生活習慣の確立が学力向上につながることを伝えるため、宮前地区子どもを育てる会が「宮前っ子 子育てプラン」として作成したポスターを校区内全ての幼保小中学校の児童・生徒に配布した。

さらに、「東和便り」や「生徒指導便り」等を発行し、機会をとらえて、基本的な生活習慣と学力向上に密接な相関関係があることを伝えるように努めていく。

② 家庭での学習習慣を身につけさせる

宿題等により家庭学習の課題に取り組ませる必要があるが、入学した頃から家庭で宿題等をするものが定着していない生徒が多いという実態がある。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、家庭学習の習慣の面では、その習慣が身につけていない生徒の割合が大きいことがわかってきた。

7年前より全学年で、5教科の担当が課題を作成し、生徒に取り組みせ提出させ、点検・評価し、生徒に返すことに取り組んだ結果、課題提出状況は、各教科で80%以上の提出率であったが、本年度は、100%の提出率を目指したい。

年末に実施した宿題アンケートの結果を見ると、宿題は学力向上には効果はあるが、家庭学習の習

慣化につながってるとは言い難い。今後は、放課後にコンピュータ室や学習室を開放し、学習支援サービス「カルテック」を活用し、家庭学習の定着を図りたい。

③ 生徒指導の充実を図る（人権・同和教育、道徳教育の充実も含む）

学習環境作りは、学習指導だけでなく生徒指導に効果的であるとの分析結果を踏まえ、規範意識を身につけさせたり、思いやりの心を育てるために、生徒指導体制のさらなる確立ときめ細かな相談活動や粘り強い取り組みの実践に努める必要がある。

さらに生徒の規範意識の醸成のため、いじめや暴力行為に関する対応の基準を明確にし、保護者や地域に理解と協力を得るよう努め、全教職員がこれに基づき一致協力し、一貫した指導を行うこと、そして、問題行動には、素早く機敏に取り組まなければならない。

また、人権・同和教育や道徳教育の充実のため、指導計画や年間教育計画を生徒の実態に応じて見直ししながら、教材や資料の工夫・改善に努めていく必要がある。

生徒指導特設授業として県警から講師を招き、「防犯教室」や「キッズサポートスクール」を実施計画、同和特設授業等を各学年の実態に応じて年間4～6回実施計画している。同和特設授業については、外部から講師を招いて実施するなど、生徒の発達段階や各教科の取り組みの内容を考慮し実施する計画である。

④ 「朝の読書活動」等の充実を図る

言語に関する能力をはぐくむためには、読書活動が効果的であることはいうまでもない。

本校では、一日の学校生活を落ち着いた中で開始することと、言語活動をより充実させるために、学校全体として「朝の読書活動」に取り組んでいる。「朝の読書活動」の10分間を充実させるために、始業時間を10分早め、教員が生徒とともに黙って本を読むことなど学校全体として前向きに読書に取り組むことにより、読書が好きになった生徒の割合が大きく伸びてきている。本年度も、「朝の読書活動」の定着と充実を図っていかなければならない。

「朝の読書活動」の共通理解事項

朝の学活前 8時30分～8時40分 の10分間 読書タイムを設ける

全校一斉に実施し、教師も教室で一緒に無言で読む。

基本の4原則

(1) みんなでやる

(生徒と教師全員が同じ時間に同じ条件で取り組む公平さが基本です)

(2) 毎日やる

(1日10分という短い時間でも、毎日行うことで生徒の読む力を育みます)

(3) 好きな本でよい

(読む本を自分自身で選びましょう。自分発見につながり主体性が育まれます。ただし、マンガ、雑誌、図鑑、新聞等は除きます。教科書も避けましょう。)

(4) ただ読むだけ

(感想文や記録は求めません。本を読んでいるときの楽しく充実した思いを大切にしてください。)

⑤ 学び合いの授業づくりの実践的研究を進めていく。

全ての学習の基盤となるのは言語活動である。言語活動を充実させるために、各教科の授業の中で、積極的に言語活動を意識した指導を取り入れることが重要となる。

県学習到達度調査の結果より、本校の授業における言語活動の状況や、言語に関する能力については、全体的には県平均と肩を並べるところまで向上してきている。

本年度も校内研修を活性化させるとともに、「学び合いの授業づくりの実践的研究」を進め、教授型授業から課題解決型授業への改善を図り、教員の実践的指導力の向上と生徒の学力向上を目指すため、研究推進校として次の具体的な取り組みを進めていくこととする。

- 授業研究を中核にした校内協議を行い、教員相互に高まり合う風土を創ること。
- 教員個々が、どの子にも学ぶ喜びを味わわせる学び合いの授業づくりをめざすこと。

2 今後の学力向上のための取り組みについて

- (1) 「朝の読書活動」の充実を図る。
- (2) 課題に取り組みせ、「家庭学習」の習慣化を図る。
- (3) 「授業づくり」の充実を図る。

「授業づくり」においては、次の5つのポイントを確認し、実践していきたい。

- ① いろんな教科で、書かせる活動を行きましょう。
- ② 授業の初めに、本時の授業の目標（めあて・ねらい）を生徒に明示しましょう。
- ③ 授業の終わりに、本時の学習内容を振り返らせましょう。
- ④ ペア学習やグループ学習の機会を増やしましょう。
- ⑤ 机間指導を行きましょう。

『TOWA7』 ～授業は静かなトーンで～

- 一、4人組のグループになる
(全員がよむ準備ができたら始める)
- 一、机はひたひたの位置
(机の間隔は20cm)
- 一、事は一人きり
(机の間隔は20cm)
- 一、分らない時はグループの人
(机の間隔は20cm)と質問
- 一、黙られて初めは静か
(机の間隔は20cm)
- 一、黙られて2分間は静か
(机の間隔は20cm)
- 一、仲間をよむ順番
(机の間隔は20cm)

- (4) 学び合いの授業についての共通理解
 - ① 講義型から子どもが中心の学び合いへの移行
 - ② 授業形態そのものの見直し
 - ・コの字型の座席配置
 - ・授業者は「聴く」に徹する
 - ・子どもの考えを子ども自身の言葉で語らせる
 - ・互いの考えを交流する場面を1時間のなかで必ず持つ
 - ③ 「学び合いの授業づくり」の約束を全校でTOWA7として共有する
また、教育課程外においても「TOWA7」を活用・発展させる。
- (5) 同僚の授業を本気で見合う
 - ① 批判しない建設的な協議会を持つ
 - ② 視点は「子どもの学び合う姿」
 - ③ 学びの視点
 - ・どこで学びが成立したか。
 - ・どこで学びがつまづいたか。
 - ・どこに学びの可能性があったか。